

報道機関各位

デング熱の発生について

市内において、デング熱(4類感染症)の発生届がありましたので、北九州市感染症公表要領に基づきお知らせいたします。

1 概要 令和7年8月4日(月)、市内 B 医療機関(小倉北区)からデング熱の発生届が出た。

2 患者情報 小倉北区在住、30代、女性

3 経過 7月28日(月) 海外(東南アジア)から帰国。
8月3日(日) 頭痛、発熱、下痢あり。
8月4日(月) 発熱(40℃)、嘔吐あり。A 医療機関を受診し、
B 医療機関を紹介受診。血液検査を実施。
検査結果より、デング熱と診断。

4 現在の状況 症状軽快傾向

5 行政対応 患者等に対する健康調査の実施。

6 デング熱の北九州市への届出状況(単位:人)

(令和7年8月5日現在)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
発生届出数 (単位:人)	0	0	1	0	0	2※

(※本件を含む)

7 その他

患者の個人情報については、プライバシー保護の観点から、提供資料の範囲内にさせていただきます。ご理解の上、特段のご配慮をお願いいたします。

8 デング熱について

別添参照

《デング熱について》

➤ デング熱とは

デング熱とは、デングウイルスを保有する蚊(ネッタイシマカなど)が媒介する感染症です。

➤ 症状

3～7 日の潜伏期間の後に、突然の発熱、発疹、頭痛、骨関節痛、嘔気・嘔吐などがあり、1 週間程度で回復します。

また、ごくまれに一部の患者において出血症状を発症し重篤化する場合があります。

ヒトがデングウイルスに感染しても、デング熱を発症する頻度は 10～50%です。したがって、感染しても、発症しないことも多く見られます。

➤ 感染経路

デングウイルスに感染した患者を蚊が吸血すると、蚊の体内でウイルスが増殖し、その蚊が他者を吸血することでウイルスが感染します。(蚊媒介性)

主たる媒介蚊は、ネッタイシマカ(日本には常在していません)です。ただし、日本のほとんどの地域(本州以南)でみられるヒトスジシマカも媒介します。

ヒトからヒトに直接感染するような病気ではありません。

熱帯や亜熱帯の全域で流行しており、東南アジア、南アジア、中南米で患者の報告が多くなっています。その他、アフリカ、オーストラリア、南太平洋の島でも発生があります。最も日本に近い流行地は台湾です。

➤ 予防のポイント

デング熱以外でも、日本脳炎など蚊を媒介した感染症は世界的に流行しています。

できるだけ蚊に刺されないよう、防蚊対策を心がけましょう。

《予防策(例)》

(1)蚊を増やさない

(水溜りをつくらない、下草刈りや剪定を行い蚊の潜み場所をつくらない)

(2)蚊にさされない

(屋内への蚊の侵入を防ぐ、長袖シャツ、長ズボンを着用し肌の露出を減らす、虫除けスプレーや蚊取り線香等を上手に使うなど)

(3)デング熱流行地(主に熱帯・亜熱帯地域)へ旅行される際は蚊に刺されないように注意しましょう。